

国民体育大会を振り返って

競技力向上委員長 森 義昭

第65回国民体育大会柔道競技は、10月1日(金)～10月3日(日)迄、千葉県成田市にあるサウンドハウス・スポーツセンターフィットネスハウス・アリーナで行われた。

東京都は成年女子が予選で敗退し、3部門での出場となった。

少年女子はインターハイで優勝した淑徳高校のメンバーでチームを固め、優勝を狙っていたが、準決勝戦で愛知県に1対1の内容差で敗れ、3位決定戦に回った。3位決定戦は愛媛県との対戦であったが、1対2で敗れ4位が確定。今年の少年女子のチームはインターハイの優勝者(太田)と準優勝者(橋本)を揃え、“優勝候補の筆頭”と言われながらも、遂に波に乗ることができなかった。優勝は熊本県であった。

少年男子はインターハイ81kg級優勝者の豊田(修徳高校)と春の高校選手権無差別級の覇者浅沼(国士舘高校)という2枚着板で神奈川県との決勝戦を想定していた。しかし、準々決勝戦で福岡県に0対1と惜敗した。優勝はその福岡県を破った神奈川県である。

成年女子は、先の世界選手権大会の52kg級のチャンピオンとなった西田の活躍により、地元の千葉県が優勝を飾る。

大会の最後を飾る成年男子は、予想どおり東京都と千葉県が順当に決勝戦まで勝ち進む。東京都は全日本選手権に優勝した高橋和彦選手がメンバーの一員であったが、ケガのため西潟選手に変更、先鋒には若さの松木選手(国士舘大学)を起用した。決勝戦では松木選手が千葉県の平岡選手を相手に果敢に攻め、引き分け。次鋒の金岡選手は73kg級世界チャンピオンの秋本選手相手に善戦したが「指導2」が与えられ惜敗した。中堅戦は引き分け、副将戦は西潟選手が「有効」を取り、勝負は大將戦に全てがかかる。東京都の大將は全日本選手権2位の立山選手、千葉県は寝技師の加藤選手。90kg級の選手ながら大きい立山選手に対しても憶することなく攻め、小内巻込で「技有り」を取り、そのまま試合終了。東京都は2位となる。その結果、東京都は神奈川県、千葉県に続き総合3位という結果であった。

成年男子は、世界選手権に出場した3名(平岡・秋本・小野)を擁する千葉県チームに対しても大善戦したが、予選で敗退した成年女子、上位進出を果せなかった少年男女と課題の残る国体であった。

平成25年の東京国体まであと3年となり、今大会の反省を踏まえ、再度強化策を検討していくつもりである。

第65回国民体育大会 柔道競技会報告書

<少年男子チーム>

第65回国民体育大会、柔道競技の少年男子の選手は次のとおりでした。

先鋒 藤澤征憲 (足立学園)

次鋒 岩淵侑生 (国士舘)

中堅 豊田 純 (修徳)

副将 浅沼拓海 (国士舘)

大将 田中大貴 (国士舘)

第2回戦 4-0で山形県に勝ち、続く準々決勝戦、福岡県との勝負になりました。

昨年、決勝で負けてしまったので、今年こそは「優勝」と思い臨みましたが、残念ながら、1-0で福岡県に負けてしまいました。

自分の柔道に持ち込み切れなかったことが、敗因です。

来年こそは優勝できるよう、この結果を活かして臨みたいと考えています。

東京都体育協会、東京都柔道連盟の役員の皆様方、応援誠にありがとうございました。

今後ともご指導の程、よろしくお願いいたします。(内海秀一)





<少年女子チーム>

先鋒：長澤(淑徳高校) 中堅：太田(淑徳高校) 大将：橋本(淑徳高校)

国民体育大会柔道競技、少年女子の部が10月1日に千葉県成田市サウンドハウス・スポーツセンターで行われた。東京都は2回戦から出場し、結果は4位だった。初戦から振り返る。

【2回戦】 2-1 宮崎県
 長澤 ▲ 内股 ○ 黒木
 太田 ○ 技有 ▲ 松本
 橋本 ○ 大外 ▲ 黒木

【3回戦】 2-1 広島県
 長澤 ▲ 優勢 ○ 高野
 太田 ○ 反則 ▲ 前田
 橋本 ○ 指導3 ▲ 中山

【準決勝】 1-① 愛知県
 長澤 × 武田
 太田 ▲ 払い腰 ○ 古屋
 橋本 ○ 指導3 ▲ 藤原

【3位決定戦】 1-2 愛媛県
 長澤 ▲ 指導2 ○ 魚山
 太田 ○ 払い腰 ▲ 石本
 橋本 ▲ 有効 ○ 井上

初戦の宮崎県が最初の山場となった。先鋒戦は宮崎・黒木が試合開始から先に技を仕掛け、長澤が凌ぐ展開となる。長澤はしぶとく動いて技を出したいところだが、組み手を絞ろうとするあまり動きが止まりいいところがない。試合中盤に止まって腰を引いたところを内股で投げられ一本負けとなる。続く中堅戦、太田は相手の組み手に合わせてしまい流れを掴むことができない。それでも奥襟を持ったところから強引に腰に乗せて投げ、技有を奪い優勢勝ちとする。追う展開となった大将戦は橋本が自力で勝り、大外刈りで一本勝ちとする。結局2-1で初戦を乗り切る。

3回戦は広島県と対戦。先鋒戦で長澤が横四方固めで技有をとられ優勢負けとなるも、中堅太田、大将橋本が逃げる相手にしっかり対応し、いずれも勝って2-1で準決勝へ進む。

準決勝は愛知県と対戦。先鋒戦は長澤が積極的に攻め、指導を奪うなどしたが取りきれず引き分け。中堅戦。ここで太田がしっかり勝ち星を取りたいところだったが、逆に競り合ったところを払い腰で合され一本負けとなる。後がない場面で大将橋本は積極的に仕掛けていくものの、指導3に留まり、1-1の内容負けとなった。

3位決定戦は愛媛県と対戦する。先鋒戦は長澤がまたも相手に攻め込まれ、序盤に指導2を奪われる。その後奮起して攻め込むが取り返せず、優勢負けとなる。続く中堅戦は、太田が相手を圧倒し払い腰で一本勝ち。内容で上回る。大将橋本は愛媛・井上に対し、中盤までしっかり組んで柔道ができていたが、次第に相手の圧力に下がり始め、残り数秒で相手の払い腰を受け切れず有効を取られて優勢負け。1-2で敗退した。

今大会を振り返ると、先鋒の長澤は技が出ず、動きが止まる場面が多くあった。国際柔道試合審判規定では常に攻める姿勢を求められるため、動きを止めず先に技を掛ける柔道を展開してほしかった。中堅の太田は気持ちが前に出ていなかった。勝負に対する執念をもっと出して試合が出来れば結果は違ってきただろう。大将の橋本は試合の中で戦い方を考えられるようになる必要がある。相手の長所や短所、その時の状況によって試合を組み立てられるようになってほしい。

全体では、先に点を取られる、勝つべき選手が負けるなど、それぞれの選手が役割を果たすことが出来なかった。試合に向けて強い意識を選手に持たせることが出来なかったと反省している。国体はそれぞれ異なる所属でチームを編成する機会が多いが、東京都の代表であることを自覚し、技術や体力だけでなく、強い結束力をつくることが求められる。チームとして勝つための意識づくりを今後の課題としたい。(監督 酒井 健弥)





<成年男子チーム>

■柔道競技会東京都代表選手団

成年男子

監督 道場 良久 (警視庁)
 コーチ 田中 力 (国士舘大学)
 先鋒 松木 武志 (国士舘大学)
 次鋒 金岡 慎司 (警視庁)
 中堅 西山 将士 (新日本製鉄株式会社)
 副将 西潟 健太 (旭化成工業株式会社)
 大将 立山 広喜 (日本中央競馬会)

■試合結果

○1回戦

東京都 4 - 0 三重県

○2回戦

東京都 4 - 0 佐賀県

○準々決勝戦

東京都 2 - 1 宮崎県

○準決勝戦

東京都 2 - 1 神奈川県

○決勝戦

東京都 1 - 2 千葉県

先鋒 松木 引分 平岡

| | | | | |
|----|----|----|---|----|
| 次鋒 | 金岡 | － | ○ | 秋本 |
| 中堅 | 西山 | 引分 | | 小野 |
| 副将 | 西潟 | ○ | － | 佐藤 |
| 大将 | 立山 | － | ○ | 加藤 |

決勝戦では次鋒の金岡が指導2で負け、副将の西潟が有効を取り返し勝ち、この時点で1対1同点であった。残す大将戦で、組み手の攻防のときに立山の間隙をつき、千葉県加藤選手が小内刈りをかけ技ありを奪われた。その後、必死に立山は攻めるが、取り返せず。結果負けてしまいました。昨年、一昨年と続き優勝を狙ったが勝負の世界は難しいと実感しました。今年の敗北の原因をしっかりと理解してさらに強化し、2013年の東京国民大会へ向け、強化体制をつくっていきたいと思いました。



